



「旅の図書館」がリニューアルオープンします（10月3日） － 観光の研究・情報プラットフォームをめざして －

2016年10月3日(月)、公益財団法人日本交通公社（会長 志賀典人）は、「日本交通公社ビル」（東京都港区）内に「旅の図書館」をリニューアルオープンします。

リニューアルのコンセプト・特徴

- 観光の研究や実務に役立つ図書館
- 独自の図書分類の構築と専門性・希少性の高い蔵書の公開
- 知見やネットワークを共有する観光の研究・情報プラットフォーム

このたびのリニューアルは、運営主体である公益財団法人日本交通公社の長期経営計画「22ビジョン」に基づき、取り組んできたものです。

「旅の図書館」は「日本交通公社ビル」にて当財団の調査研究部門とともに、これまで以上に専門性を高めて新たな機能の発揮に取り組みます。

<リニューアルのコンセプト・特徴>

○ 観光の研究や実務に役立つ図書館

新たなコンセプトは「観光の研究と実務に役立つ図書館」です。観光分野の専門図書館として、観光を研究している方・学んでいる方、観光政策の立案、観光産業や観光地の経営や実務に携わっている方、あるいは広く観光に関する動向や歴史に興味をお持ちの方にご利用いただけたらと考えています。

当財団の調査研究部門が活動の中で収集してきた専門性の高い図書や統計、公開可能な調査研究報告書なども蔵書として統合し、蔵書規模は約6万冊となりました。

◆「旅の図書館」の創設

「旅の図書館」は1978年(昭和53年)、「テーマのある旅を応援する図書館」として財団法人日本交通公社が八重洲第一鉄鋼ビル1階に開設したものです(開館当時の名称は「観光文化資料館」。1999年に「旅の図書館」へ改称)。2015年10月以降、移転のため一時的に閉館していました。

○ 独自の図書分類の構築と専門性・希少性の高い蔵書の公開

独自分類の構築

広範な分野の資料を収蔵する公共図書館や大学図書館における資料・図書の分類は、一般に、日本十進分類法(NDC)を用いていますが、「旅の図書館」はこのたび、専門分野に対応した分類に取り組み、独自に構築しました。

体系的な分類に適した十進分類法の長所を活かしつつ、収蔵資料の特徴や観光分野の専門性に対応するため、観光研究資料（T分類）、財団コレクション資料（F分類）、基礎文献（NDC分類）の3つの分類方法を導入しました。旅の歴史や、社寺、祭り、温泉、民俗学などの基礎資料については、従来のNDC分類を利用しています。

表 「旅の図書館」の図書分類法

観光研究資料(T分類)独自分類		財団コレクション資料(F分類)独自分類		基礎文献(NDC分類)	
【対象】観光研究の専門図書・資料 約8,000冊		【対象】財団関係資料及び 特徴的な収蔵資料 約27,000冊		【対象】観光に関わる基礎的文献 約13,000冊	
T0	観光原論・概論	F0	財団(JTBF)関係資料	0	総記
T1	観光者・観光活動(Ⅰ)	F1	JTB関係資料	1	哲学
T2	観光者・観光活動(Ⅱ)	F2	統計・白書	2	歴史
T3	観光地・観光資源(Ⅰ)	F3	ガイドブック	3	社会科学
T4	観光地・観光資源(Ⅱ)	F4	旅行商品パンフレット	4	自然科学
T5	観光産業	F5	時刻表・機内誌	5	技術・工学
T6	観光計画・開発	F6	古書・貴重資料	6	産業
T7	観光政策	F7	映像・デジタル資料	7	芸術・美術
T8	観光経営・経済	F8		8	言語
T9	観光と文化・社会・環境	F9	保存資料	9	文学

※分類名については広義の意味での「観光」を前提とする

◆NDCによる分類の場合、観光に関する図書・資料の大半が、第一次区分「産業(6)」→第二次区分「運輸・交通(68)」→第3次区分(689)」に含まれます。

古書・稀観書 2,300 冊の公開

「旅の図書館」はこれまでも古書や稀観書を収集し、予約限定で閲覧いただきましたが、このたび書誌データを整え専用書架を設置して、来館時の公開性を高めました。

外国の観光政策を日本語に訳した戦前の本、明治期の日本国内の温泉や観光地の様子を記した文献、あるいは昭和初期の日本の観光魅力を英語で紹介したガイドブックなど、国内外の政府組織や旅行・観光産業界が発行、活用してきた貴重な資料を所蔵しています。

◆ジャパン・ツーリスト・ビューローの雑誌『ツーリスト』(1913 年創刊)、日本で最も長く続いた旅行雑誌『旅』(1924 年創刊)も創刊号から所蔵し、専用端末にてデジタルコレクションを閲覧いただけます。

○ 知見やネットワークを共有する観光の研究・情報プラットフォーム

「日本交通公社ビル」には 100 名規模のシンポジウムが開催可能な「ライブラリーホール」を設けました。

図書のある空間の魅力を活かし、書架に隣接したホールや会議室での研究会、シンポジウム、たびとしよ Cafe など、観光の研究や実務に携わる皆様が集まり交流できる機会を増やします。本年 4 月に発足した「観光文化情報センター」が中心となり、当財団の調査研究部門や「旅の図書館」がこれまでに得た知見やネットワークをより多くの皆様と共有し、様々な情報や人との出会いが生まれる場を創出していきます。

なお、スライディングウォール(移動壁)による柔軟な空間づくりを行い、ホールの一部は通常、「旅の図書館」の閲覧スペースとして来館者にご利用いただけます。

◆たびとしょ Cafe

「図書空間でつなぐ&楽しむ研究交流」を合言葉に、ゲストスピーカーと参加者が気軽に語り合える場として2014年度(平成26年度)からこれまでに6回開催しました。

◆観光文化情報センター

「旅の図書館」「企画室」「編集室」からなり、図書館運営に加え、情報発信とネットワーク構築を担務する部署として本年4月に発足しました。



「旅の図書館」1F ライブラリープラザ

<「旅の図書館」ご利用案内>

開館時間：月曜日～金曜日 10:30～17:00

休館日：土曜日・日曜日・祝日・毎月第4水曜日・年末年始

入館料：無料

※臨時休館日、開館時間、利用可能スペースの変更などは事前にホームページ等でお知らせします。

※ご利用は1F受付カウンターで利用申請をお願いします。本の館外貸し出しは行っておりません。

※古書・稀覯書の他、古い時刻表の一部、統計資料の一部は閉架資料のため、閲覧申請が必要です。

<公益財団法人日本交通公社 '22ビジョンについて>

2012年、公益法人認定を機に当財団は10年間の長期経営計画「'22ビジョン」を策定しました。

国家的戦略として観光の重要性が増すなか、当財団は、観光分野における実践的な学術研究機関として国や地域の諸課題に対する解決力を発揮できる組織となることを目標に掲げ、取り組みを進めています。

本年5月、文部科学省より「学術研究機関」の指定を受けました。

<日本交通公社ビル概要>

名称：日本交通公社ビル

構造：地上2階、地下1階

竣工日：2016年7月27日

住所：東京都港区南青山二丁目7-29

延床面積：1,358㎡



公益財団法人日本交通公社は「観光文化の振興」に取り組む公益財団法人として、観光を通じた豊かな社会の実現に貢献します。

【お問い合わせ先】 公益財団法人日本交通公社
観光文化情報センター 福永・久保田
TEL 03-5770-8360 Email: zaidan_info@jtb.or.jp
〒107-0062 東京都港区南青山二丁目7-29

※2016年8月22日に事務所移転しました。